

菅茶山会報

第 8 号
発 行

菅茶山先
遺芳顕彰会
1997年11月3日



菅茶山詩碑

龍泉寺桜

(在 神辺町川北(帰)新宮山 龍泉寺)

新会長挨拶

菅茶山遺芳顕彰会

会長 高橋孝一

府中市の首無し観音のすぐ上、府中八幡宮へ登る途中あたりの地名を羽中(はなか)という。ここに自然石で出来た大きな常夜燈がある。四足の加工はしてあるが、岩の上に根を下ろして安定している。八幡宮に鉄の神様が祀ってあるとのことで、登る途中に目に付いた。看板に「羽中 菅茶山」と題して、「川明知日暮 烟直覚風收」の詩を付けてある。府中市の「出口郷愛会」とある。

十年ほど経た今年夏に、撮影目的で再び訪ねた。ところが今度は、景色に不似合いな家がそばに建てられているので絵になりにくい。茶山が「羽中」の詩を詠んだのは寛政五癸丑夏(一七五三年)四十六歳の頃の作との説明がある。「田圃のほとりの草むらをくぐる流れが淙淙として」と、そのころの景色が想定される。

それにしても国内各地で、このように茶山を引用した事物に触れることが度々ある。神辺を離れた地で茶山を評価する人が多いのである。当然、地元における顕彰会の存在意義は大きい。

幸い理事に名を連ねた面々は、神辺の知性とも言うべき顔触ればかりである。私はいえ、英語とワープロとハイテクの職業で、漢字や詩歌とは縁が遠い。何らかのこじつけで担ぎ出されたものであろうが、会長の職に耐えらるかどうか甚だ心もとなない。が、綿々と引き継がれ成長するであろう顕彰会の、土台石の一つになるとうと覚悟を決めた以上、各位のご協力ご援助を切に乞い願うばかりである。